美濃陶磁歴史館だより

連続コラム　うちんたぁのお宝、なんやね？

第９回 柿野・白鳥神社
～中馬街道の賑わいを伝える～

7月号でもご紹介した中馬街道は信州飯田と名古屋とを結び、土岐市内では曽木、鶴里町細野、柿野を通ります。明治時代末に鉄道が開通する以前には、物資の輸送や旅の人々の往来が盛んな街道でした。

柿野の中馬街道に面して建つ白鳥（しらとり）神社は、村の産土神（うぶすなかみ）として地域を見守り、街道の賑わいを見つめてきた歴史ある社です。神社の創建年は定かではありませんが、神社に残る最も古い棟札が嘉吉2年（1442）のため、室町時代の15世紀以前の創建といえます。境内には荘厳な社殿や9つの末社が建ち並ぶほか、立派な「まわり舞台」も残され、街道を中心に栄えた往時の柿野村を偲ばせます。

江戸時代に柿野村の庄屋を務めた林家日記を読み解くと、白鳥神社の秋祭りには、遠方から旅回りの興行師が来てさまざまな芸能が行われたことが記されています。日記から秋祭りの記述をみてみると…

弘化三年（一八四六）
八月十四日曇り
力持来る、夕方に大入りをする[※2]

弘化四年（一八四七）
八月十四日吉
名古屋より物まね六人来る[※3]
八月十五日吉少々雨ふり
御祭馬三ッ、物まねする[※4]

旧暦8月は、現在の9～10月頃です。弘化3年の興行「力持ち」[※1]は大入りの大盛況だったようです。翌年は、名古屋からモノマネ芸人六人組[※3]が来ています。8月15日には「御祭馬」[※4]（花馬）も三頭出されました。祭りには柿野以外からも多くの人が集まり、賑わったことでしょう。興行は境内に残る舞台で行われたとみられ、文化12年（1815）建立の記録があるこの舞台では、地域住民による地歌舞伎も上演されました。

境内に残る舞台

白鳥神社社殿

舞台衣装をつけた
地歌舞伎の役者

『鶴里町誌』
第一巻より転載

特別展のご案内

小山冨士夫と美濃 －昭和の窯業界のあゆみとともに－

世界的な陶磁研究者として知られる小山冨士夫が最晩年を過ごした土岐市。五斗蒔に「花の木窯」を築窯し精力的に制作活動を行った小山の陶芸家としての一面を紹介します。

前期　9月17日（金）～12月5日（日）
後期　12月9日（木）～令和4年2月13日（日）

美濃陶磁歴史館
（☎㊺1245）